

# 職能団体である介護福祉士会の入会率の低さに関する一考察

—アンケート調査から理由を探る—

石川高司\*，井之上尚美\*\*，岡村友美\*\*\*，山元優子\*\*\*\*，高橋信行\*\*\*\*\*

## 1. はじめに

介護福祉士は、社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）に定められた介護・福祉分野の国家資格である。介護福祉士の有資格者数は年々増加しているが、2019年3月末現在、介護福祉士の職能団体である公益社団法人日本介護福祉士会の入会率は2%と低い。そして、筆者たちが所属する鹿児島県介護福祉士会も入会率は3%と低い現状がある。

山内・伏谷・藤田ら（2011）が山口県美祢市の介護福祉士を対象に行ったアンケート調査では、介護福祉士会へ入会しない理由として、「非入会者は、入会金や会費等お金がかかるからと感じており、資格の取得で満足している傾向がうかがえる」と述べている。また、介護福祉士会の存在を知らないと回答した人は2割を占め、「介護福祉士会としての情報提供不足や現会員の勧誘不足も浮き彫りになった」と述べており、金銭的な問題とともに、介護福祉士会の情報提供不足を示唆し、「情報交換や勧誘など現会員がアプローチすることにより、加入率が向上する可能性が高い」と示している。

また、山内・伏谷・藤田ら（2012）は、山口県介護福祉士会会員を対象としたアンケート調査を行い、「介護福祉士会に入会した理由は、専門職としての必要な情報収集や資質を高めるため等キャリアアップの意識が高く、介護福祉士会に期待する役割は、労働条件など長期に働ける支援が必要と考えている会員が多かった」と述べ、職能団体として、介護福祉士会の必要性和役割を示唆している。

山内・伏谷・藤田らの研究から10年経過した。その間、介護福祉士会は、介護福祉士の専門性を高める研修や生涯研修制度の確立、介護福祉士の処遇改善に対する提言等、様々な活動を行い、職能団体として介護福祉士の専門性の向上や処遇改善に努めているが、なぜ入会率は低いのだろうか。

本研究では、「介護福祉士の介護福祉士会に対する認知度が低いため、介護福祉士会の入会率は低い」という仮説をたて、鹿児島県介護福祉士会未加入の介護福祉士を対象に調査を行い、介護福祉士会に未加入の理由を探ることで、未加入の介護福祉士の現状を知り、今後の介護福祉士会の加入率向上のための取り組みや介護福祉士から求められる介護福祉士会としての活動やあり方について考察する。

---

キーワード：介護福祉士，職能団体，加入率，介護福祉士会，認知度

---

\*鹿児島県介護福祉士会 研究委員会 委員長

\*\*鹿児島県介護福祉士会 研究委員会 委員

\*\*\*鹿児島県介護福祉士会 理事

\*\*\*\*鹿児島県介護福祉士会 研究委員会 委員

\*\*\*\*\*本学福祉社会学部教授

## 2. 介護福祉士会とは

### 1) 公益社団法人日本介護福祉士会<sup>1</sup>とは

日本介護福祉士会は1994年、介護福祉士のネットワーク作りと、専門性の確立、専門的教育を主な目的とする全国組織として誕生した。2013年からは、公益社団法人日本介護福祉士会となり、全国各地での専門性を高める研修、審議会での提言、国・自治体や関係機関等への意見発信など介護福祉士の地位向上を目指した様々な活動に取り組んでいる。

### 2) 鹿児島県介護福祉士会<sup>2</sup>とは

鹿児島県介護福祉士会は、1992年に鹿児島県社会福祉協議会主催の研修会に参加した出席者50余名が集い、鹿児島県における介護福祉士の資質向上を目指した研修会等を開催できるような職能団体を組織化することを目的に誕生した。1999年に全国組織として設立していた日本介護福祉士会へ参画し、更なる飛躍を目指して、介護技術研修、レクリエーション研修等開催し、会員をはじめ介護職員の資質向上に努めてきた。

2011年からは、一般社団法人鹿児島県介護福祉士会とし、今日では、6地区（鹿児島、北川薩、南薩、大隅、始良・伊佐、大島）、4委員会（企画・運営、研究、広報、防災）、会員1100余名の組織となり、様々な活動に取り組んでいる。

### 3) 介護福祉士会<sup>3</sup>の活動

国の方針や制度を踏まえて、全国の介護福祉士に対して、標準的な研修プログラム等を開発・実施し、それを各都道府県介護福祉士会で実施できるようにしている。また、処遇改善、制度の位置づけ、制度改革の際に利用者の権利、現場で働く方々の権利を守るために、社会保障審議会などで発言・要望している。

## 3. 他職能団体について

介護福祉職は、介護業務だけでなく、医療、リハビリ、ケアマネジメント分野とも連携している。それぞれの専門職として、看護師、理学療法士、ケアマネージャーが存在しており、また職能団体も存在している。

### 1) 公益社団法人日本看護協会

公益社団法人日本看護協会は、看護職（保健師・助産師・看護師・准看護師）の資格を持つ個人が自主的に加入し運営する日本最大の看護職能団体で、47都道府県にある看護協会（法人会員）と連携して活動する全国組織である。個人の力だけでは解決できない看護を取り巻く課題を組織の力で解決し、看護を発展させ社会に貢献することを目的としている。基本理念として「看護の質の向上」「看護職が働き続けられる環境づくり」「看護領域の開発・発展」の3つを元に活動を行っている。

### 2) 公益社団法人日本理学療法士協会

理学療法士の職能団体である公益社団法人日本理学療法士協会は、理学療法士が集う唯一の学術及び職

---

1 公益社団法人日本介護福祉士会「公益社団法人日本介護福祉士会のご案内」入会申し込みパンフレットより

2 鹿児島県介護福祉士会事務局「鹿児島県介護福祉士の沿革」

3 鹿児島県介護福祉士会事務局「介護福祉士の活動について」

能団体である。理学療法士の地位向上を通じて、国民の医療・保健・福祉の向上を目指し、学会大会の開催や学術誌の発行、研究助成といった学術活動をはじめ、教育研修、調査研究、広報といった活動を行っている。

### 3) 公益社団法人日本社会福祉士会

社会福祉士の職能団体である公益社団法人日本社会福祉士会は、社会福祉士の倫理を確立し、専門的技術を研鑽し、社会福祉士の資質と社会的地位向上に努めるとともに、都道府県社会福祉士会と協働して人々の生活と権利の擁護及び社会福祉の増進に寄与することを目的に設立され、権利擁護のための活動や自己研鑽のための研修を実施している。

### 4) 一般社団法人日本介護支援専門員協会

介護支援専門員の職能団体である日本介護支援専門員協会は、利用者、家族、地域と向き合う介護支援専門員の社会的地位向上を実現させて行くことが責務であり、国民の暮らしを守り、国民誰もが安心して住み慣れた環境で生活を続けていくために、また、それぞれの職域や地域で活躍する介護支援専門員のために、全員参加型の組織づくりを念頭に、ケアマネジメントの質の向上と効果の実現を目指し、実りのある提言と発信の活動を行っている。

### 5) 他職能団体の加入率

上記の職能団体への入会率は表1のとおりである。日本看護協会は会員数75万人で加入率約47.0%、日本理学療法士会約12万人で加入率約72.7%、日本社会福祉士会は約4万1千人で加入率17.8%、日本介護支援専門員協会は約3万人で加入率約4.2%であり、日本介護福祉士会は、加入率が約2.4%と他職能団体と比べて低いことがわかった。

表1 他職種における職能団体加入者数と加入率および年会費について

職能団体名	日本看護協会	日本理学療法士協会	日本社会福祉士会	日本介護支援専門員協会	日本介護福祉士会
総数	1,612,951人	172,285人	233,517人	約700,000人	1,694,630人
加入者数	758,694人	125,372人	41,731人	約30,000人	42,341人
加入率	約47.0%	約72.7%	約17.8%	約4.2%	約2.4%
年会費	5,000円+ 都道府県別年会費 3,000円～ 11,000円	11,000円+ 都道府県別年会費 4,000円～ 12,000円	都道府県により 異なる 10,000円～ 17,000円	5,000円+ 都道府県別年会費 1,000円～ 6,000円	3,000円+ 都道府県別年会費 3,000円～ 6,000円
年会費合計	8,000円～ 16,000円	15,000円～ 23,000円	10,000円～ 17,000円	6,000円～ 11,000円	6,000円～ 9,000円

※上記加入率は各職能団体のホームページを参考に筆者作成

※看護協会については2018年の総数と2020年の会員数により求めたものである

## 4. 研究内容、研究方法

### 1) 研究背景と研究目的

介護福祉士会は、職能団体として、介護福祉士の専門性を高める研修や生涯研修制度の確立、介護福祉士の処遇改善に対する提言等、様々な活動を行い、介護福祉士の専門性の向上や処遇改善に努めているが、なぜ入会率は低いのかと疑問を抱いた。

本研究では、「介護福祉士の介護福祉士会に対する認知度が低い」ため、介護福祉士会の入会率は低い」という仮説をたて、鹿児島県介護福祉士会未加入の介護福祉士を対象に調査を行い、介護福祉士会に未加入の理由を探ることで、未加入の介護福祉士の現状を知り、介護福祉士会の加入率向上のための取り組みや介護福祉士から求められる介護福祉士会としての活動やあり方について考察する。

## 2) 調査対象と調査内容

調査は、鹿児島県内の介護、障害福祉施設に勤務する介護福祉士を対象とし、本研究の研究員の所属する事業所や関連施設、研究員が調査を依頼し承諾を得た施設や個人に郵送した。

回答は、質問紙への記入か QR コードでの読み取りとし、質問紙での回答を希望した方は、質問紙を返信用封筒にて返信か事業所でまとめて返信してもらう方法とした。34事業所（887名）に調査依頼し、440名の回答があった。本研究では、介護福祉士会に未加入の者に「なぜ職能団体に入会しないのか」を調査するため、440名の回答のうち、介護福祉士会に未加入の316名を調査対象とした。

調査期間は2020年11月22日～2020年12月20日で、調査方法は、無記名自記式質問紙調査とした。

## 3) 倫理的配慮

倫理的配慮に関して、本調査の実施及びデータ分析は、調査対象者の人権と個人情報に十分に配慮し、データについては統計的に処理を行った。また、アンケート調査で知り得た情報に関しては、本研究以外では使用しないことを文書に明記した。

## 4) 分析方法

分析方法はアンケート調査のデータを SPSS Statistics Ver.27で入力し単純集計及びクロス集計を行った。

## 5. アンケート調査結果

### 1) 基本属性

性別では、本研究の回答者と、「介護労働実態調査」の結果による男女比と特に差異はみられず、女性が7割を占めた。(表2) (表3)

表2 性別 (N=316)

	度数	割合
男性	90	28.5%
女性	226	71.5%
合計	316	100.0%

表3 2019年介護労働実態調査 (N=9,475)

	割合
男性	22.7%
女性	70.1%
不明	7.2%
合計	100.0%

表4の年齢では本研究の回答者上位が40代（32.3%）30代（29.4%）50代（17.7%）に対して、「介護労働実態調査」の上位は、40代（23.7%）50代（20.4%）30代（20.2%）となっている。本研究の回答者では全国の介護職の年代比率に比べ30代が多かった。

表5のように介護職歴では、回答者の6割以上が10年以上の職歴があり、5年以上10年未満が24.1%であった。

表4 年齢 (N=316) (N=40,239)

	2020年 本研究回答者		2019年 介護労働実態調査
	度数	割合	
10代	1	0.3%	0.5%
20代	33	10.4%	11.3%
30代	93	29.4%	20.2%
40代	102	32.3%	23.7%
50代	56	17.7%	20.4%
60代以上	31	9.8%	17.9%
無回答	—	—	6.0%
合計	316	99.9%	100.0%

表5 介護職歴 (N=316)

	度数	割合
1年未満	1	0.3%
1年以上3年未満	13	4.1%
3年以上5年未満	14	4.4%
5年以上10年未満	76	24.1%
10年以上	212	67.1%
合計	316	100.0%

## 2) 保有資格と職能団体への入会状況

介護福祉士以外に保有している資格として多かったのは、「訪問介護員」64人(38.3%)、「介護支援専門員」47人(28.1%)、「社会福祉主事」23人(13.8%)であった。「その他」として、「保育士」4人、「認知症ケア専門士」3人、「精神保健福祉士」1人などが挙がっていた。(表6)

介護福祉士会以外に加入している職能団体は、「介護支援専門員協会」17人(36.1%)、「社会福祉士会」5人(83.3%)であり、職能団体未加入者は287人だった。(表7)

表6 介護福祉士以外の保有資格(複数回答可)

	度数	割合
訪問介護員	64	38.3%
介護支援専門員	47	28.1%
看護師	3	1.8%
社会福祉主事	23	13.8%
社会福祉士	6	3.6%
その他	24	14.4%
合計	167	100.0%

表7 他の職能団体への入会状況(複数回答可)

	度数	入会率
介護支援専門員協会	17	36.1%
社会福祉士会	5	83.3%
看護協会	0	—
理学療法士協会	0	—
その他	4	—
未加入	287	—
無回答	4	—
合計	317	

## 3) 介護福祉士会の認知度

### ① 介護福祉士会の認知度

鹿児島県介護福祉士会の認知度について調査した。「知っている」が171人(54.1%)「知らない」が145人(45.9%)であった。(表8)

表8 介護福祉士会の認知度

	度数	割合
知っている	171	54.1%
知らない	145	45.9%
合計	316	100.0%

② 年齢による介護福祉士の認知度

表9 年齢による介護福祉士の認知度

	知っている		知らない		合計	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合
10代	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
20代	15	45.5%	18	54.5%	33	100.0%
30代	50	53.8%	43	46.2%	93	100.0%
40代	67	65.7%	35	34.3%	102	100.0%
50代	28	50.0%	28	50.0%	56	100.0%
60代	11	35.5%	20	64.5%	31	100.0%
合計	171	54.1%	145	45.9%	316	100.0%

年齢による介護福祉士の認知度は、表9に示すように10代、20代と60代で「知っている」という回答が少なく、40代、30代、50代の順で半数以上が「知っている」と回答している。

③ 介護職歴による介護福祉士の認知度

回答者が1人の1年未満を除いて、経験年数が増えるにつれて介護福祉士の認知度は高くなっており、10年以上では59.4%が「知っている」と回答していた。

表10 介護職歴による介護福祉士の認知度

	知っている		知らない		合計	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合
1年未満	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
1年以上3年未満	4	30.8%	9	69.2%	13	100.0%
3年以上5年未満	5	35.7%	9	64.3%	14	100.0%
5年以上10年未満	36	47.4%	40	52.6%	76	100.0%
10年以上	126	59.4%	86	40.6%	212	100.0%
合計	171	54.1%	145	45.9%	316	100.0%

4) どのような方法で介護福祉士を知ったか介護福祉士認知のきっかけ

介護福祉士を知った手段としては、表11に示すように、「国家試験合格時において介護福祉士に登録する際の資料に配布されるパンフレットから」(26.3%)、「職場の同僚から」(17.3%)、「職場の上司から」(13.5%)の順であった。「職場の同僚から」「職場の上司から」「知り合いから」を合わせると4割を超えているため、人からの口コミの影響は大きいと考えられる。

また、「介護福祉士会主催の研修による事務局からの説明」(11.3%)や「介護福祉士養成施設(専門学校、短期大学、大学を以下介護福祉士養成施設と示す)での教師などからの説明」(9.8%)であった。

「その他」(11.3%)としては、「ビルの中のポスター」「インターネット」「忘れた」「わからない」「昔のことで覚えていない」等であった。(表11)

表11 どのような方法で介護福祉士会を知ったか

	度数	割合
知り合いから	14	10.5%
職場の同僚から	23	17.3%
職場の上司から	18	13.5%
介護福祉士養成施設からの説明	13	9.8%
介護福祉士会主催の研修による，事務局からの説明	15	11.3%
国家試験合格時に同封されたパンフレット	35	26.3%
その他	15	11.3%
合計	133	100.0%

### 5) 介護福祉士の年会費

介護福祉士の年会費は6,000円であるが、表12に見るように会費について「高い」と答えた者は126人(39.9%)で約半数の者は「わからない」149人(47.2%)であった。これは、表7のように26人しか他職能団体へ入会していない(回答者の9割以上が他の職能団体へ入会していない)ので、比較できないためと考えられる。

表12 介護福祉士会未加入者の年会費に対する意識

	度数	割合
高い	126	39.9%
妥当である	39	12.3%
安い	2	0.6%
わからない	149	47.2%
合計	316	100.0%

介護福祉士会に未加入で他の職能団体に入会している者の介護福祉士の会費に対する意識は、「会費が高い」11人(44.0%)、「妥当である」7人(28.0%)、「わからない」7人(28.0%)であった。(表13)

「会費が高い」と答えた者は、介護支援専門員協会に入会している者で6人(35.3%)、社会福祉士会に入会している者で4人(80.0%)おり、他職能団体に入会していても介護福祉士の費用は高いと感じている者がいることがわかった。(表14)

表13 他の職能団体入会者の介護福祉士の会費に対する意識

	度数	割合
高い	11	44.0%
妥当である	7	28.0%
安い	0	0.0%
わからない	7	28.0%
合計	25	100.0%

表14 介護支援専門員協会や社会福祉士会入会者の介護福祉士の会費に対する意識

	介護支援専門員協会		社会福祉士会	
	度数	割合	度数	割合
高い	6	35.3%	4	80.0%
妥当である	5	29.4%	1	20.0%
安い	0	0%	0	0%
わからない	6	35.3%	0	0%
合計	17	100.0%	5	100.0%

### 6) 介護福祉士会に入会したいと思うについての調査の結果

「入会したいと思う」10人(3.2%)、「どちらともいえない」233人(73.7%)、「興味がない」73人(23.1%)であった。(表15)

表15 介護福祉士会に入会したいと思うか

	度数	割合
入会したいと思う	10	3.2%
どちらともいえない(わからない)	233	73.7%
興味がない	73	23.1%
合計	316	100.0%

7) 介護福祉士会に入会したいと思う理由

表16 入会したい理由(複数回答可)

	度数	割合
アンケートがきっかけになった	4	13.8%
メリットを感じた	4	13.8%
以前から興味があった	3	10.3%
研修に参加したい	6	20.7%
自己研鑽	6	20.7%
会員との交流	4	13.8%
時間や余裕ができた	0	0.0%
以前から勤められていた	1	3.4%
周囲に入会した人がいた	1	3.4%
その他	0	0.0%
合計	29	99.9%

介護福祉士会に入会したい理由としては、「研修に参加したい」「自己研鑽」(20.7%)、「今回のアンケートがきっかけになった」「介護福祉士会にメリットを感じた」「会員との交流」(13.8%)で、同数であった。(表16)

8) 介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた者の理由

表17 介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた者の理由(複数回答可)

	度数	割合
会費が高い	97	14.7%
メリットがない	36	5.4%
活動内容が不明	93	14.1%
研修に参加できそうにない	62	9.4%
他の職能団体に入会している	14	2.1%
介護福祉分野に長く勤めない	19	2.9%
育児・家事・介護が忙しい	78	11.8%
職能団体の活動に興味がない	31	4.7%
現状に満足	37	5.6%
周囲に職能団体に入会している人がいない	38	5.7%
入会のきっかけがない	61	9.2%
入会方法を知らない	36	5.4%
政治的な印象を受ける	7	1.1%
その他	8	1.2%
わからない	44	6.7%
合計	661	100.0%



介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由として多かったのは、「会費が高い」(14.7%)、「活動内容が不明」(14.1%)、「育児・家事・介護が忙しい」(11.8%)、「研修に参加できそうにない」(9.4%)、「入会のきっかけがない」(9.2%)であった。(表17)

表18 年代による介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由  
(複数回答可)

	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上	
会費が高い	度数	—	度数	9	度数	32	度数	37	度数	15	度数	6
	割合	—	割合	11.5%	割合	14.6%	割合	16.6%	割合	15.0%	割合	12.5%
メリットがない	度数	—	度数	2	度数	9	度数	14	度数	7	度数	4
	割合	—	割合	2.6%	割合	4.1%	割合	6.3%	割合	7.0%	割合	8.3%
活動内容が不明	度数	1	度数	14	度数	33	度数	26	度数	16	度数	4
	割合	33.3%	割合	17.9%	割合	15.1%	割合	11.7%	割合	16.0%	割合	8.3%
研修に参加できそうにない	度数	—	度数	4	度数	21	度数	25	度数	11	度数	2
	割合	—	割合	5.1%	割合	9.6%	割合	11.2%	割合	11.0%	割合	4.2%
他の職能団体に 入会している	度数	—	度数	1	度数	4	度数	5	度数	3	度数	1
	割合	—	割合	1.3%	割合	1.8%	割合	2.2%	割合	3.0%	割合	2.1%
介護福祉分野に 長く勤めない	度数	—	度数	1	度数	2	度数	6	度数	6	度数	6
	割合	—	割合	1.3%	割合	0.9%	割合	2.7%	割合	6.0%	割合	12.5%
育児・家事・介護が 忙しい	度数	—	度数	5	度数	31	度数	28	度数	10	度数	5
	割合	—	割合	6.4%	割合	14.2%	割合	12.6%	割合	10.0%	割合	10.4%
職能団体の活動に 興味がない	度数	—	度数	1	度数	11	度数	14	度数	4	度数	1
	割合	—	割合	1.3%	割合	5.0%	割合	6.3%	割合	4.0%	割合	2.1%
現状に満足	度数	—	度数	8	度数	6	度数	12	度数	5	度数	6
	割合	—	割合	10.3%	割合	2.7%	割合	5.4%	割合	5.0%	割合	12.5%
周囲に職能団体に入 会している人がいない	度数	—	度数	3	度数	12	度数	14	度数	5	度数	4
	割合	—	割合	3.8%	割合	5.5%	割合	6.3%	割合	5.0%	割合	8.3%
入会のきっかけがな い	度数	1	度数	11	度数	27	度数	16	度数	6	度数	1
	割合	33.3%	割合	14.1%	割合	12.3%	割合	7.2%	割合	6.0%	割合	2.1%
入会方法を知らない	度数	1	度数	9	度数	15	度数	7	度数	4	度数	1
	割合	33.3%	割合	11.5%	割合	6.8%	割合	3.1%	割合	4.0%	割合	2.1%
政治的な印象を受け る	度数	—	度数	2	度数	2	度数	2	度数	1	度数	—
	割合	—	割合	2.6%	割合	0.9%	割合	0.9%	割合	1.0%	割合	—
その他	度数	—	度数	—	度数	3	度数	3	度数	—	度数	2
	割合	—	割合	—	割合	1.4%	割合	1.3%	割合	—	割合	4.2%
わからない	度数	—	度数	8	度数	11	度数	14	度数	7	度数	5
	割合	—	割合	10.3%	割合	5.0%	割合	6.3%	割合	7.0%	割合	10.4%
合計	度数	3	度数	78	度数	219	度数	223	度数	100	度数	48
	割合	99.9%	割合	100.0%	割合	100.0%	割合	100.0%	割合	100.0%	割合	100.0%

表19 介護職歴による介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由  
(複数回答可)

	3年未満		3年以上 5年未満		5年以上 10年未満		10年以上	
	度数		度数		度数		度数	
会費が高い	度数	4	度数	3	度数	21	度数	69
	割合	12.5%	割合	10.0%	割合	14.1%	割合	15.3%
メリットがない	度数	—	度数	—	度数	10	度数	26
	割合	—	割合	—	割合	6.7%	割合	5.8%
活動内容が不明	度数	6	度数	8	度数	29	度数	50
	割合	18.8%	割合	26.7%	割合	19.5%	割合	11.1%
研修に参加できそうにない	度数	1	度数	3	度数	13	度数	45
	割合	3.1%	割合	10.0%	割合	8.7%	割合	10.0%
他の職能団体に入会している	度数	—	度数	1	度数	2	度数	11
	割合	—	割合	3.3%	割合	1.3%	割合	2.4%
介護福祉分野に長く勤めない	度数	1	度数	1	度数	1	度数	16
	割合	3.1%	割合	3.3%	割合	0.7%	割合	3.6%
育児・家事・介護が忙しい	度数	2	度数	1	度数	15	度数	60
	割合	6.3%	割合	3.3%	割合	10.1%	割合	13.3%
職能団体の活動に興味がない	度数	—	度数	—	度数	7	度数	24
	割合	—	割合	—	割合	4.7%	割合	5.3%
現状に満足	度数	1	度数	2	度数	10	度数	24
	割合	3.1%	割合	6.7%	割合	6.7%	割合	5.3%
周囲に職能団体に入会している人がいない	度数	1	度数	—	度数	9	度数	28
	割合	3.1%	割合	—	割合	6.0%	割合	6.2%
入会のきっかけがない	度数	6	度数	4	度数	12	度数	39
	割合	18.8%	割合	13.3%	割合	8.1%	割合	8.7%
入会方法を知らない	度数	7	度数	3	度数	5	度数	21
	割合	21.9%	割合	10.0%	割合	3.4%	割合	4.7%
政治的な印象を受ける	度数	—	度数	2	度数	—	度数	5
	割合	—	割合	6.7%	割合	—	割合	1.1%
その他	度数	—	度数	—	度数	2	度数	6
	割合	—	割合	—	割合	1.3%	割合	1.3%
わからない	度数	3	度数	2	度数	13	度数	26
	割合	9.4%	割合	6.7%	割合	8.7%	割合	5.8%
合計	度数	32	度数	30	度数	149	度数	450
	割合	100.0%	割合	100.0%	割合	100.0%	割合	100.0%

① 年代による介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由

介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由を年代別で比較すると、20代以下では「活動内容が不明」「入会のきっかけがない」が多く、30代では「活動内容が不明」「会費が高い」、40代では「会費が高い」「育児・家事・介護が忙しい」、50代では「活動内容が不明」「会費が高い」、60代では「会費が高い」「介護福祉分野に長く勤めない」「現状に満足」という結果となった。10代を除くすべての年代で「会費が高い」と感じており、次に20、30、40、50代「活動内容が不明」、30、40代が「育児・家事・介護が忙しい」という結果となった。(表18)

② 介護職歴による介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由

介護職歴では、3年未満は「入会方法を知らない」、「活動内容が不明」、「入会のきっかけがない」、3年以上5年未満は「活動内容が不明」、「入会のきっかけがない」、5年以上10年未満は「活動内容が不明」「会

費が高い」、10年以上は「会費が高い」「育児・家事・介護が忙しい」が上位を占めた。全ての介護職歴で「活動内容が不明」の割合が高く、3年以上5年未満、5年以上10年未満、10年以上の介護職歴で「会費が高い」と感じていた。(表19)

## 6. 考察

### 1) 基本属性

介護職歴10年以上は67%を占め、30代40代では6割を超えており、本研究では、介護・福祉分野で継続して働く者は多いことが明らかになった。職場の環境、自分自身を取り巻く環境の変化などで職場を変える者はいるが、介護・福祉業界で介護福祉士の資格を活かし、長きにわたって働く者が多いことが推測される。

### 2) 介護福祉士会の認知度

本研究の基本属性では介護職歴が10年以上の者が約7割を占めているにも関わらず、鹿児島県介護福祉士会の入会率はわずか3%である。本研究で回答者の半数は介護福祉士会の存在を知っているが、入会までは至っておらず、入会率は低い。

20代は介護福祉士養成施設を卒業し、資格を取得した者もいると考えられるが、認知度は低い。また、40代、介護職歴10年以上の介護福祉士会の認知度は高いが、入会していない。

### 3) 入会したいと思う理由

介護福祉士会に入会したいと答えた者は少なかったが、「研修に参加したい」、「自己研鑽」等の意見がみられた。本研究の調査結果により、介護福祉士会に入会について「どちらともいえない」と答えた者が73.7%であるため、今後、研修の内容や案内の方法によっては、入会率を高めるきっかけにつながるのではないかと考える。

### 4) 介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由

介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由として多かったのは、「会費が高い」(14.7%)、「活動内容が不明」(14.1%)、「育児・家事・介護が忙しい」(11.8%)、「研修に参加できそうにない」(9.4%)、「入会のきっかけがない」(9.2%)の順である。(表17)

年代別でも「会費が高い」「活動内容が不明」が上位を占め、30代、40代で「育児・家事・介護が忙しい」の割合が高かった。

介護職歴3年未満では「入会方法を知らない」が上位であり、介護職歴10年以上は「会費が高い」の割合が高かった。

本研究の回答者は、子育て世代である30代、40代が半数を占めており、子育てに費用がかかるため、介護福祉士会の会費を高いと感じていると考えられる。日本理学療法士協会では、年会費割引制度があり、育児休業中の育児休業割引、満65歳以上かつ会員歴25年以上の在会会員のシニア割引がある。介護福祉士会未加入者の入会しない理由の一つとして「会費が高い」と感じている回答が多いため、当介護福祉士会でも幅広い年齢層に柔軟に対応した年会費制度を取り入れることで、介護福祉士会に入会しやすい仕組みを検討する必要があると考える。

## 5) 先行研究との比較

山内らの研究(2011)では、「介護福祉士会非入会者は入会金や会費等お金がかかるからと感じており、資格の取得で満足している」と述べ、介護福祉士会の認知度が低いのは「介護福祉士会としての情報提供不足や現会員の勧誘不足」と示していた。

山内らの研究から10年経過し、介護福祉士取得者は年々増加している。その間、介護福祉士会は、介護福祉士の専門性を高める研修を開催し、パンフレット等を使用して入会案内を配布することも行っているが、現在の入会率は3%と低い。本研究では、介護福祉士取得者の介護福祉士会に対する認知度が低く、介護福祉士会の入会に至っていないのではないかと考え、「介護福祉士の介護福祉士会に対する認知度が低いため、介護福祉士会の入会率は低い」という仮説を立て研究を行った。

調査結果として、約半数の介護福祉士が介護福祉士会の存在を知っていること、「入会したい」と考える人は316人中10人と少ないことがわかり、約半数の介護福祉士が介護福祉士会の存在を知っているが入会までに至っていないことが、本研究でわかった。また、介護福祉士会の入会に「どちらともいえない」「興味がない」と答えた理由として「会費が高い」「活動内容が不明」と答えた者がどの年代にも多く、介護福祉士会の活動内容を知らない介護福祉士が多いこともわかり、山内らの研究結果と同様の結果が見られた。

本研究では、介護福祉士会の存在を知った手段として、①口コミ、②介護福祉士養成施設や介護福祉士会事務局からの説明、③パンフレットの三つの要素で、介護福祉士会を知ることができている。

そのため、この三つの要素を検討、改善することで、今後の介護福祉士会の入会率を高めることができると考える。特に、口コミは職場の上司や同僚、知り合いからと、身近な人が介護福祉士会を知っていることが必要である。

そして、介護福祉士会の存在を知ってもらっただけでは入会に至ってないため、同時に介護福祉士会の活動内容を伝え、職能団体として興味を持ってもらえるような広報を行うことが求められる。現在行っている、資格取得時の案内、介護福祉士養成施設への案内に加えて、施設・事業所の施設長や管理者への広報活動もさらに必要であると考え。介護福祉士会の入会方法も同時に伝え、入会のきっかけづくりを行うことも必要であると考え。

本研究を通じて、職能団体として、介護福祉士会には、活動内容の広報方法や幅広い年代に応じた会費の設定、介護福祉サービス事業所への理解と支援を深める活動(介護福祉士会の活動に参加しやすい環境や研修案内の情報提供)、魅力的で受講したい研修内容や会員の交流の場の設定等が、今後の加入率を高めていくことにつながるのではないかと考える。

## 7. おわりに

介護福祉士は資格取得がゴールではなく、資格取得後に自己研鑽していくことが求められる。介護福祉士会は自己研鑽や処遇改善のための手段でもあり、介護福祉士個人が専門性を高め、介護福祉士の社会的地位向上に努めていく必要がある。そのためにも、加入率を上げ、組織を強化し、現場で働く介護福祉士の意見を集約し、介護福祉士から求められる介護福祉士会として、職場環境の改善に繋げられる職能団体を目指したい。

本研究では、介護福祉士養成施設で資格取得した者と実務経験による資格取得者の介護福祉士会の認知度に関する分析が不十分だったため、今後の課題として、調査項目の精査を十分に行っていきたいと考える。また、介護福祉士会未加入だが、他の職能団体に入会しているものもおり、ダブルライセンス取得者の職能団体に関する意識について調査をし、入会率向上の手がかりを探りたいと考える。さらに、他の職

能団体がどのような広報を行っているのか、また会員のメリット（会費の割引や研修の特典等）について調査することも入会率の向上につながると考える。

## 文献

公益社団法人日本理学療法士協会（n.d.），“年会費割引制度申請”，公益社団法人日本理学療法士協会，  
<http://www.japanpt.or.jp/about/join/change-notification/06/>，（参照2021-3-27）

柴口里則（2019-06-23），“会長挨拶”，一般社団法人日本介護支援専門員協会，<https://www.jcma.or.jp/>，  
（参照2021-5-14）

松沢齊（2019），“あらためて日本協会のご紹介”，『ケアマネ群馬』No.115，p 1。

PDF 版：<http://caremane-gunma.com/wp-content/uploads/2020/08/caremane-gunma115.pdf>

山内朱美・伏谷昇造・藤田大介・三吉智美・田村真智子（n.d.），“介護福祉領域における職能団体についての意識—山口県美祿市介護福祉士へのアンケート調査から—”，一般社団法人山口県介護福祉士会，  
[http://www.yamaguchi-kaigo.jp/wp-content/uploads/\\_about/h23-5.pdf](http://www.yamaguchi-kaigo.jp/wp-content/uploads/_about/h23-5.pdf)，（参照2020-06-30）

山内朱美・伏谷昇造・藤田大介・三吉智美・田村真智子（n.d.），“介護福祉領域における職能団体についての意識（2）—山口県介護福祉士会会員へのアンケート調査から—”，一般社団法人山口県介護福祉士会，  
[http://www.yamaguchi-kaigo.jp/wp-content/uploads/\\_about/h24-6.pdf](http://www.yamaguchi-kaigo.jp/wp-content/uploads/_about/h24-6.pdf)，（参照2020-06-30）